

令和元年 10 月 30～31 日産業厚生委員会視察レポート

1) 東海市いきいき元気推進事業について

- ① 枕崎市と東海市に於いては特別会計規模、及び地方交付税、地方譲与税など交付額があまりにも異なっており、元気推進事業においてこれらを比較した場合、元気推進事業における住民へのサービスなど大差が出ると考えている。
- ② 東海市の場合、いきいき推進事業の取り組みに対し企業(事業所)と連携した取り組みを実施しており、本市としても参考にすべき点と考えた。
- ③ 本市もいろいろな健康推進事業に取り組んでいるが PDCA サイクルを活用した経過報告など実施することで、本市が取り組んでいる健康体操などの医療費への効果が判断でき、市民もやる気が出てくるのではないかと考える。

2) 静岡県焼津市汐入下水処理場視察について

(下水処理事業財政状況など下水処理、悪臭対策、汚泥処理について質問)

- ① 焼津市の場合、昭和 55 年 7 月に下水処理場共用開始していた。

水産加工場については独自で下水や汚泥処理を実施しており、公共下水場への接続はしてないという事であった。

そのような中、平成 30 年度汚水処理量は日量平均 11,008 m³、汚水処理能力 4 系列で日量最大 20,000 m³、汚泥処理量年間 2,628,68 屯ということで、その汚泥はセメント資源化に年間 1,674.32t。肥料化 953.36t となっていた。

本市住民に対し大きな問題となっている悪臭脱臭処理設備としては、活性炭吸着塔にて悪臭対応をしている状況、測定結果についても、官能試験(臭気密度)出口 7,900ppm, 官能試験(臭気指数) 17～34ppm で周辺からの悪臭に対する苦情は聞かれない。

本市下水道処理場の臭気についても、臭気指数で表示すべきと考えこれまで質問してきたが、悪臭は改善されていない。

- ② 本市の場合、水産加工場からの汚水及び住民からの下水処理を同じ施設で処理していることで悪臭対策、汚泥に含まれる油分除去に苦慮しており、汚泥処理に対する経費は平成 30 年度、1 億 3 千万程度に上昇している。本市の下水道事業の場合、債務残高は平成 30 年度 33 億円くらいで、今後、本市財政に対する大きな負担になる。

このような状況を考えた場合、水産加工場は本市基幹産業であると言われているが基幹産業に住民の市税を投入するようでは基幹産業としての経営責任が乏しく悲しい問題がある。悪臭により買い物客など市内から離れることが考えられる。

現在の状況になった最大の理由は、議会議員や市職員の取り組み方に問題があったと考え、今後は、一部の住民のためでなく枕崎市市民生活を最優先すべきと考えている。

3) 沼津市、みなとオアシス沼津施策の概要と経済効果・集客状況について

- ① 沼津市人口約 19 万 5 千人、東京から沼津駅までの距離 126Km・所要時間約 1、5 時間

位くらい。基本構想には人と環境を大切にする県東部広域拠点都市を掲げ、東京からの客層に着眼点を置き、活性化対策として本市には参考にできることは少ないように思った。

- ② 沼津市場は管理衛生型と思われ、清潔な感じで鳥類や虫など侵入できない構造になっていたのにさすがと感じた。
- ③ 平成12年に国土交通省から、地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される港として「特定地域振興重要港」に指定されていることで国からの交付金や補助金類が多くなったのが、街の活性化に繋がったと考えられる。